

## 都市開発における水循環再生と下水道整備のあり方に関する基本調査

全体期間

1996.2～1997.2

本文79P～83P

## (目 的)

都市開発における下水道の雨水排水施設は、開発地区内の浸水対策を主目的とした「雨水の速やかな排除」という考え方にに基づき、流出量の増大に対応した雨水幹線や調整池等の整備を中心として計画されている。しかし、最近では貯留や浸透といった手法を組み合わせ、流出抑制型下水道として「ゆっくり流す」という考え方が取り入れられ、さらには、水循環再生下水道モデル事業に代表されるような、親水整備、アメニティの確保といった視点を持った下水道事業が実施されるようになり、流出抑制と環境を雨水排水計画に位置づけていこうとする動きが見られるようになってきている。一方、住宅・都市整備公団による都市開発においては、時代に先行した都市基盤施設の整備として、開発区域内の雨水排水計画の中で、各種の貯留浸透施設を組み込んだ複合的なシステムの導入を実施し、雨水の流出抑制と環境が共生した都市構造を先導的に形成してきた。

本調査では、研究会、施策部会での議論をもとに、都市開発における下水道雨水排水計画を中心に据えた水環境整備のための総合的な体系を明確化するとともに、その施設計画や事業化方策について「都市開発における水循環複合システムのあり方」として提案を行った。

## (結 果)

## (1) 水循環複合システムとは

都市開発における水循環保全・再生のための手法を「水循環複合システム」として、都市開発地区内に雨水排水の自立型システムを図る都市構造を構築し、開発による環境への負荷を低減するとともに、利水、アメニティ性の面で付加価値を持った開発を実現することが可能となる。

## (2) 水循環複合システムの基本方針

水循環複合システムの骨格として、水循環複合システムを導入するにあたって、①計画目標の設定、②都市構造計画への一体化、③整備技術の体系化、④事業実施体系の再構築の4つの観点を整理しなければならないとした。

## (3) 水循環複合システムの整備方針

水循環複合システムの整備計画の体系化を行い、各項目の検討整理を行った。具体的には、技術的体系の構築として都市開発における「地下」「面」「線」的施設の技術内容の整理とその配置計画、システム導入における水環境改善効果の評価、事業化にむけた基本的考え方の整理と課題と対応策について検討を行った。

住宅・都市整備公団からの受託研究

研究担当者：前田 正博、中田 穂積、伊藤 紀夫、本 靖夫、苧木 新一郎、久保田 勝一

キーワード

都市開発、河川、下水道、水循環、水循環複合システム、複合的な雨水対策